

2022年度活動テーマ(案)「つくと食べるでつながろう ～私たちの地産地消～」

新年度！改めて常総生協の 農産物の考えをお伝えします。

常総生協の組合員さんに食卓にのせる食べものを選ぶ際に気を付けてほしいこと、厳選された常総生協取り扱い商品の中でも自信をもって「これは必ず利用してほしい」というものを紹介します。毎週お届けする商品案内（カタログ）の中で、是非「わが家の定番」商品が見つかると思います。

**地産地消・土づくりを大切に考える生産者と共に
～基本は農薬を使わない栽培と、顔の見える関係づくり～**

●農産物取り組みの考え方



農産物は商品というより食べ物・生命を支えるもの。だから、常に、その農産物が組合員一人一人の健康を支えるものであるかどうかを重視します。これについて、画一的な見方をせず、様々な角度から検討しています。「**農産物は人の健康・生命を支えるもとだね**」であると考えます。したがって、農薬の使用状況のみならず、作り方、考え方等様々な話しをして行く中で、組合員の健康を支えていく、という点を理解し合い、生産者もこの考えを大切にしてくれるかということを重視しています。企画の際の判断も、まずこの1点を最優先に考えます。

●農産物取り組みの基準

★人ありき

農産物は人が作っています。自然も土も人が生かし、生かされています。素材も人が選んでおり、一つ一つの食材の中に、生産者の姿勢と生き方が込められています。健全な農産物は健全な畑から、健全な生産者の手で生まれます。そういう生きた農産物であるか、元気の出る農産物であるか、が大切だと思います。したがって、有機農産物のみ、とか無農薬だけ、といった、画一的で分かりやすい基準というものはありません。もちろん農薬等、なるべく、体に取り込まないために、使わないほうが良いのは明白です。ただ、栽培において、高温多湿な日本の気象条件、これまでの長年の化学肥料、農薬の大量使用でやってきた日本の大部分の農業の実情からしても、無農薬でなければ切り捨てるというようなやり方では、農業を志す人も減り、農業自体が危機に瀕しているのも事実です。

農薬・化学肥料を使用すると環境への負荷が大きいということが広く認識されてきている現在、常総生協との取り組みがある無しに関わらず、環境への負荷を減らし、人の健康を真に考えられる生産者を一人でも増やすことが、これからの大きな課題であると考えます。

★農産物は土作りが基本

有機農産物という言葉が流行りですが、私達は有機か無機か、という問題より、

- 土に微生物が棲み、有機物をきちんと分解できること、粘土による団粒構造が作られて保肥力のある土地で、地下部の根張りがきちんと出来ていること（余分な窒素を植物に吸収させない）。
- 土にミネラルがあり、植物の代謝がきちんとできること。

これらが前提となる生産者であるかどうかが必要だと考えます。

常総生協は野菜の欠品があるとの意見もありますが、足りないからと言って市場から調達してまかなうようなことはしません。誰がどのようにつくったかわからないものは供給できません。生きたものは工場生産とは違います。農薬を無くしたり、天候等の影響でうまく作れなくても、生産者と率直に語り、ともに研究し、来年に生かしていく・・・

一つ一つの気の長い共同の作業が生協ならではの事業です。これなしに安心な食べ物など、安易に手に入るとは思いません。

★無農薬であるかは重要。無農薬への絶えざる努力も重要です。

危険な物、安全面で疑わしいものを体にとり入れないようにするために、農産物の農薬の問題は重要ですが、この点も含めて日頃取り組んでいることは、

1. 生産現場に足を運ぶ
2. 生産者の人柄を含め、農業に対する考えを理解し、信頼関係を大切にする
3. 生協の取り組みを理解してもらう。

以上の3点です。

一般的には、納品された農産物を抜き取り検査して残留農薬をチェックし、予定外の農薬が検出されたら一定期間出荷停止にする、という方法もあります。検査自体は、外部機関に依頼するなどすれば済むことなのですが、これは行っていません。この方法では、産地に対し一定のプレッシャーを持たせることは可能かもしれませんが、また、広く不特定多数の人に対して説得力を持たせるには一番簡単で取り組みやすいのですが、結果が伴うかと言えばそうとも言えないと考えます。というのも、

1. 常に全量検査することができない。
2. 使用しても残留しない農薬が多い。
3. 不信な関係になる。

という事情があるからです。と同時に、身に覚えの無い検出結果で出荷停止あるいは取引停止にされるという場合もあると聞いたことがあります。その一方で、過去半年以上さかのぼって使用された農薬も検出できるという機械を備え

て、とにかく農薬使用の有無、多寡だけを問題にしている団体もあるようです。

★常総生協の場合、規模が小さいので、

1. 生産過程がかかる農産物を集めることができる。
2. 「対産地」でなく「対生産者」との関係性から、圃場、倉庫、資材など、生産環境も把握しやすく、かつ、生産者個人の人間性、農業への考え方、取り組みが理解し合える

という事が強みです。

また、農産物について、生協から強制的にこれは無農薬で作ってください、できなければ取り組みはやめます、といったアプローチはしません。いきなり無農薬は難しくても少しずつ農薬使用を抑える減農薬へ移行しながら、無農薬栽培を目指します。また無農薬を基本においても、病気や虫の発生が著しい場合は殺虫剤殺菌剤を使用せざるを得ない場合があれば、生産者から、使用に関して相談、申し出があります。生協でも殺虫剤殺菌剤を使用した際や、可能性があるときは使用する場合ありとお知らせしています。

また、無農薬野菜セットの生産者の方々は、就農の最初から長年にわたり無農薬で取り組んでいる生産者ですので、相手からの要請や商売優先とは関係なく、自分のポリシー、生き方として無農薬を貫いています。こういう場合は使う、こういう場合は使わない、ではなく、頑として使わない、使わないのが当然、という信念を持って、生産に取り組んでいます。

生産者はともに人の健康に良い物を供給しようという共通目的をもつパートナーと考えています。したがって、無理強いをせず、ステップバイステップで農薬を減らしながら、無農薬でいけるものは無農薬へ移行するというやり方、そしてお互いに包み隠さず話し合える関係性が大事だと考えます。

具体的には、

1. 個人の生産者との直接の取り組みの場合
2. 産地事務局が管理する場合

があり、

1. の場合は、上記のようにまめに足を運んで現状を確かめることが中心です。いろいろな話しの中で、農薬を使いそうな見とおしのある物は「使う」、といえる関係を作るようにしています。

2. の場合は、常総生協だけでなく、他の有機農産物等の団体に出荷しているケースが多く、JAS法により、産地自体がかなり厳しくチェックしていることと、常総生協はさらに、その産地の中の個人の生産者を指定しますの

で、その人のところに頻繁に通い、その人をよく理解し把握するという作業を主にしています。いずれにせよ、市場物、もしくはこれとあまり変わらない大規模流通のものに取り組むわけではありませんので、より明確な把握の仕方が可能だと思います。

★忘れてはならない点として、

1. 国の法律（JAS法）として有機農産物がどういうものか決められることになっていますが、具体的に農産物のチェックをどうするかといえば書類審査が中心となっています。認証団体も常に農家に張りついているわけにもいかないので、厳密に言えば、大規模流通の中では本当に有機農産物なのかはわかりません。
2. 農薬の使用がどうか、という尺度だけが最近特に言われていますが、そこから更に進めて、人の健康に寄与する、身体に良い農産物か、あるいは生産者はそういう作物を作ろうと常に考え実践しているか、という視点が抜けているとも思われます。というのも、有機農産物であっても、肥料のバランスが崩れたり多すぎたりして野菜の中の硝酸値がやたらと高いものがあつたり、虫があまりつかず、耐

病性も高くても見た目はよくても食味は宜しくないという品目もあります。

農産物は商品というよりも「食べ物」＝「いのちのもとだね」と考えます。

有機JAS法にとらわれず栄養成分がしっかり含まれる野菜を作れるような土の作り方、野菜の育て方、考え方をもった生産者を増やしていきたいと思っています。

それが、健全な農産物を皆が食べられるようになる近道と考えます。

1つ1つに目が届くこと。1人1人に目が届くこと。時間はかかってもこの地道な活動を通して、「常総生協の農産物なら安心」あるいは「常総生協に出荷するのはやりがいがある」という信頼関係を、組合員と生産者の力で強固なものに育てていきたいと思っています。

第113回 脱原発と暮らし見直し委員会 報告

2022年3月9日(水) Web会議 13時半～16時 組合員8人参加。

Zoomを利用し、Web会議で開催しました。セシウム測定値、茨城県東海第二原発安全性検証ワーキングチームへの意見書、映画「牛久」、東海第二原発などについて情報交換しました。

- 各地の放射性物質測定結果では、茨城県産の干し芋から31Bq/kg検出されたのが気になりました。震災から10年が過ぎたので、生協での測定結果の取りまとめを行う予定です。
- 2/21(月)東海第二発電所安全性検証ワーキングチームが開催されました。提出した生協の意見書に対して、まだ正式な回答がありません。きちんとした回答をもらうまで粘り強く要望していきます。
- 本年に予定されていた東海第二原発の燃料装荷は、工事の進展状況から2年延期になりました。再稼働まで少しだけ余裕ができたようです。廃炉を目指して活動を続けます。
- 牛久入管の実体を描いた映画「牛久」が茨城県でも公開されています。**ぜひ皆様もご覧ください。そして、感想をお送りください。**

★次回は、2022年4/8(金)13時半～Web会議の予定です。Web会議には生協からも参加できます。

委員会はどなたでも自由に参加できます。

参加希望の場合は常総生協HPの「組合員専用お問い合わせ」フォームから事前にご連絡ください。

2022年度総代会前 「おしゃべり会」(懇談会)開催のお知らせ!!

春風が心地よいこの頃、組合員の皆様には日頃の生協活動、地域の催し、商品利用へのご協力ありがとうございます。

早いもので、2021年度も終わり、2022年度に入ります。みんなで、この一年できる様になったことを振り返ったり、今度はこんなことをやってみようかと、話し合う場として「おしゃべり会」を開きます。

2022年度の活動テーマ(案)は「つくると食べるでつながろう ～私たちの地産地消～」です。組合員皆さんの生活の知恵や、くらしの工夫の交流を深めていける年にしていきたいと思います。皆さんの「おしゃべり」の中から新たな発見、取り組みにつながるような会になればと思います。ふるってご参加下さい。今年は新型コロナウイルスの影響を考慮して、感染対策をしながら対面開催で各地区で開催します。1人でも多くの組合員さんと今後の生協のビジョンについて話し合いたいと思います。ご協力の程、よろしくお願い致します。

(開催日程) ※地区は目安です。日程的に参加しやすい場所で参加して頂いてOKです。

開催番号	開催地区	開催場所	開催日時	申し込み締め切り
①	つくば・土浦・石岡	みどりの風(茨城県つくば市荻間1465-2)	4/10(日) 13:00-15:00	4/7(木)
②	取手・利根	かたらいの郷 会議室B(茨城県取手市長兵衛新田 193-2)	4/12(火) 10:00-12:00	4/8(金)
③	我孫子・柏	けやきプラザ 調理室(千葉県我孫子市本町3-1-2)	4/21(木) 10:00-12:00	4/2(土)
④	牛久・龍ケ崎・阿見	リフレプラザ ひたち野うしく 第二会議室 (茨城県牛久市ひたち野東1丁目33-6)	4/13(水) 10:00-12:00	4/11(月)
⑤	柏・野田・流山・松戸	柏中央公民館 会議室3A (千葉県柏市柏5丁目8-12 教育福祉会館内)	4/13(水) 10:00-12:00	4/11(月)
⑥	守谷・つくばみらい・常総・坂東	常総生活協同組本部 組合員活動室(茨城県守谷市本町281) (オンラインも含めてハイブリット開催します)	4/16(土) 13:00-15:00	4/14(木)

-----きりと-----

2022年総代会前おしゃべり会(懇談会)に参加します。

コース名：_____ 組合員番号：_____ 氏名：_____ 参加人数：_____

❖ 申し込みにあたって

- Zoom参加希望者はWEBフォームで参加入力をお願いします。
- リアル開催参加者でもWEBフォーム(右記QRコードもしくは生協ホームページ)で参加申し込み可能です。
- 生協へ電話(0297-48-4911)での申し込みも可能です

2022年度総代会前「おしゃべり会」(懇談会)

